

No.226
2019
5/13



はちおうじ

JR東労組
八王子地本
八王子地本
ホームページ
「東労組八王子」で検索



八地申16号 ライフサイクル深度化施策のあり方に関する申し入れ第1回交渉開催 5/10実施、第2項途中まで
施策の目的である輸送業務に専念するべきだ!

1. ライフサイクルの深度化施策が施行され10年経つが、その成果と課題を明らかにすること。

組合要求

施策の成果と課題を具体的に示すこと、また駅輸送業務は運輸のプロ・輸送のプロはほぼライフサイクルが担っている。駅輸送のプロが少ない。玉突き人事は行なわないこととしたが、玉突き人事が行われている。

課題を明確にするべきだ。大駅では輸送業務をライフサイクル者が中心に担っている。駅輸送のあり方、異常時対応、サービス向上などそれぞれにおいての課題を明確にしたうえで議論が出来ることだ。

会社回答

平成20年から10年実施し12期まで進んだ。駅の安全とサービスに貢献いただいている。社員個々の成長や若手社員の育成を通じて駅のレベルアップが図られてきた。大きな課題があったとはいえない。もう少し駅に残る社員がいてくれれば良かった。

駅の輸送業務はライフサイクル者が担っている認識がある。信号については社会人採用も増え平成採が80%以上であり順調に技術継承できている。

駅輸送の将来展望がなく、会社としての施策実施の目的が明確でない!

2. 青梅駅・武蔵小金井駅では、ライフサイクル異動者の意見を一切聞かず、一方的に信号業務を行う作業ダイヤを作成していることから、直ちに中止し作業ダイヤを元に戻すこと。また、この間の議事録確認を履行し、駅を熟知した「輸送のプロ」「信号のプロ」をプロフェッショナル採用者からつくり出すこと。

ライフサイクル者の意見を聞いた上で実施されていない。

施策の主旨・目的が伝えられず、駅信号の穴埋め的な要員となっている。議事録に則り運用するべきである。駅長判断で逸脱してもよいとはならない。

この間信号取扱い誤りなど発生している。信号業務は簡単なものではない。そもそもホーム業務を3年で習熟することが重要である。この間の労使議論である!!

青梅も武蔵小金井も駅長・管理者・社員と意見交換し実施してきたものである。信号業務に不安がないよう研修を実施し見習いを実施している。覚書に則り運用している、社員すべての意見を把握していないが、議論経過もあり誤解があるのであれば議論していく。

信号業務の勤務が回らないという理由でライフサイクル社員の作業ダイヤに信号業務を入れている訳ではない!

ホーム業務は3年で習熟するという認識ではない! なお一方的に習熟度を見ずに信号業務を行うことはない。また作業ダイヤを作成するうえで社員と共に作成してきている、なお社員とはライフサイクル社員だけの意見ではない。

当事者意見を聞いたうえで実施するべきだ

対立

LC者に意見を聞かず作業ダイヤを作成していることが発覚! 労使議論のないがしろは認めない!

ライフサイクル社員の意見を聞くべきだ。職場現実を把握し認識を一致させてからでないと団体交渉にならない。会社の交渉に臨む姿勢を問う! 再度把握して席に着くべきである。

ライフサイクル社員の誤解は解くように現場長に伝える。社員に対し繰返し話をしていく。議事録に書いてないから、その一言で施策を担う訳ではない。現場での関わりの問題である。しかり社員の意見を聞いていく。

**交渉に臨む会社側の姿勢を厳しく指摘し中断
労働三権である団体交渉権の軽視である!**